東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

中華人民共和国における『大学院教育学科専攻目録』改訂の変遷と高等教育における書法学科の行方

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 東京学芸大学教育実践研究推進本部 公開日: 2024-03-12 キーワード (Ja): 高等教育, 書法教育・書道教育, 大学院学科専攻目録, ETYP: 教育関連論文 キーワード (En): higher education, Calligraphy Education（Shodo Education）, Catalogue of Graduate Education Department, Majors 作成者: 王, 力軍, 加藤, 泰弘, 草津, 祐介 メールアドレス: 所属: 山西大学, 東京学芸大学, 東京学芸大学
URL	http://hdl.handle.net/2309/0002000271

東京学芸大学紀要　教職大学院　**75**: 25 – 35，2024

中華人民共和国における『大学院教育学科専攻目録』改訂の変遷と高等教育における書法学科の行方

王　力軍*1・加藤　泰弘*2・草津　祐介*3

教育実践創成講座

（2023年9月21日受理）

はじめに

2021年12月初旬，国務院学位委員会が『博士，修士学位授与及人材育成学科専攻目録（征求意見稿）』（博士，硕士学位授予和人才培養学科専業目録（征求意見稿））[1]およびその管理弁法を発布した後，芸術界の広範な注目を集めることになった。翌2022年9月13日，国務院学位委員会および教育部は『大学院教育学科専攻目録（2022年）』（研究生教育学科専業目録（2022年））（以降『新目録』と表記）と『大学院教育学科専攻目録管理弁法』（研究生教育学科専業目録管理弁法）[2]を公布し，新版の学科目録（『新目録』）には14の部門，117の一級学科が示され，2023年に正式に運用を始めることが決定した。そして，『新目録』で発生する課題について，積極的な議論がはじまり，高等教育研究における重要な話題となった。

本研究では，中華人民共和国（以降「中国」と表記）の大学院学科専攻目録の歴史を振り返り，『新目録』後の「芸術学」部門における一級学科の変化の特徴，「美術と書法」学科の段階的構築等について，考察をしていきたい。

1．大学院学科専攻目録改訂の変遷

1．1　1983年版から2022年版への変遷と特徴

大学院学科専攻目録の第1回目の調整は，高等教育の繁栄と発展を推進したといえる。学科設置とは高等教育学科計画と学科の基礎的専攻の設置を指し，これは人材育成の計画と目標，教育資源の配置や調整，学術の繁栄や発展といった方面にも関係する。大学院学科専攻目録は学科部門，一級学科と二級学科の三つの段階に分けられる。[3]

1983年3月，国務院学位委員会が第4回の会議で決定し公布した『高等学校と科研機構の博士及び修士学位を授与する学科専攻目録（試行草案）』（『高等学校和科研機構授予博士和硕士学位的学科専業目録（試行草案）』）は，中国で初めて，真の意味で作成された学科専攻目録である。教育部は大学院教育の学科専攻目録について，6回の調整と修訂を経て，1983年版，1990年版，1997年版，2011年版，2018年修訂版および2022年版の6回の版を作成している。

1983年版の学科目録は各大学および科研機構の自主的な学位授与権の申告の基礎の上に形成されたものであり，各大学および科研機構の間に多くの学科専攻の学科部門があるという不合理性を有し，異なった部門下で学科専攻を設置する基準も不統一である。極端な言い方をすれば一級学科と二級学科のはっきりとした境界がなかったと整理できる。

1990年版の学科目録は，1983年版の基礎の上に，中国の発展に伴い形成された学科，体系に基づくとともに，国際的に主要な学科分類を参考にし，学科部門と各級学科の調整をおこなった。各部門，各学科の間の関係を整理して明確にし，学科専攻の設置基準を統一し，専攻について一部適度な調整をおこなった。[4]

1997年版の学科目録は段々と一級学科を規範的に正常化していき，二級学科を広げて調整した。1990

＊1　山西大学（中華人民共和国 山西省太原市塢城路92号）
＊2　東京学芸大学 教育実践創成講座（184-8501　東京都小金井市貫井北町 4-1-1）
＊3　東京学芸大学 美術・書道講座 書道分野（184-8501　東京都小金井市貫井北町 4-1-1）

年版の学科目録と比較すると，学科部門は12部門増加し，一級学科は72学科から89学科に増加し，二級学科（学科，専攻）は大幅な調整がおこなわれ，654種から386種に調整がなされた。さらに工学部門についての大幅な調整がおこなわれた。[5] この時期の学科目録中の一級学科は強制力がつよい傾向があり，二級学科には参考に留まる傾向があった。さらに，専攻の種類が減少し，場合によっては二級学科でもなくなっており，中国の大学院の学科専攻目録の変化がみてとれる。

2011年は学科目録の変化の重要な転換点である。この１年は，国務院の学位にかかわる部署すべてが学位授与単位と目録内外の二級学科に関連する改善を実施し，大学に自主的に二級学科を設置する権限を与えた。2011年版の学科目録から，二級学科の詳細情報を学科目録と一緒に公布しなくてよいということになっている。[6]

2018年教育部は2011年版の学科目録を更新し，修訂版を公布した。更新された学科目録は2011年版と比べ大きな変化はなく，インターネットセキュリティ（網絡空間安全）という一つの一級学科が増加したのみだった。[7]

2022年版の学科目録は「学際学科（交叉学科）」部門が新たに増設され，その下に６つの一級学科が設置された。特に注目すべきは「デザイン（設計学）」が設置されたことである。

１．２　1983年版から2022年版への学科部門，一級学科，二級学科の数の変化

1983年版の大学院学科専攻目録に掲載された学科部門，一級学科，二級学科の専攻の数の変化をまとめたのが図１である。学科部門は，1983年の試行草案から2022年版の学科目録まで，10部門から14部門に増加した。増加したこの４学科部門は，軍事学，管理学，芸術学，学際学科である。社会の発展にしたがい，学科部門が次第に増加することになったということができる。

一級学科の数量的な変化は，1983年版の学科目録では10種類の学科部門，63種類の一級学科が設置された。1990年版学科目録では72種類の一級学科が設置され，試行草案に比べると９つ増加している。1997年版は1990年版に比べ17種類増え，89種類の一級学科となった。2011年版の学科目録は一級学科の増加が最大となる改訂があり，一級学科の数は110種類にも達し，20パーセント増加し，39種類の専攻学位が増加した。中国の大学院の学位には学術学位と専攻学位の二種類があり，育成目標が異なる。書法に関連して説明すれば，学術学位は学位論文を審査対象として判定するものであり，専攻学位は創作作品等を中心として実践報告あるいは創作に関連する研究によって判定するものである。2018年版は唯一「インターネットセキュリティ（0839）」一つの一級学科が増加したが，専攻学位は47種類増加した。2022年版の学科目録の一級学科の総数は117学科あり，前の版に比べ６学科増加した。2011年に一級学科の数が明らかに増加しはじめ，近年の２回の修訂を経て安定したというのは見とれる。また，「学際学科（14）」部門が2022年の新版の目録で加わったのは大きな特徴である。

二級学科の数を見ると，1983年版の学科目録には638種類の二級学科があった。1990年版は軍事学部門を含まない状況もあり，591種類となり，試行草案に比べ47種類が減少したが，軍事学部門中には29種類の二級学科があり，実質の合計は620種類と数えられる。1997年版の学科目録は二級学科において大幅な

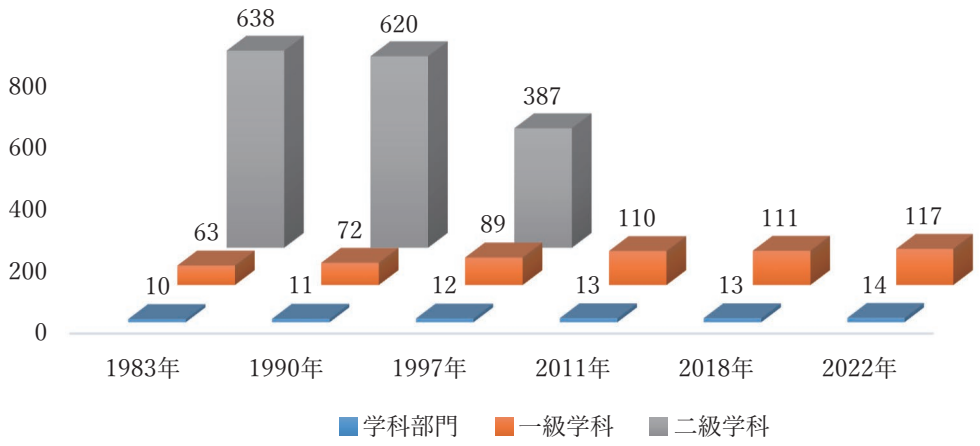

図１　各版の学科目録（部門および学科）の数の変化

調整がおこなわれ，二級学科の総数は387種類[8]に減少した。2011年から，学科目録は二級学科に関係する情報を公布しないことになった。

2．芸術学部門における一級学科の変化

大学院専攻目録の調整過程中，芸術学部門の影響が大きかったのは2011年と2022年の２回の調整であった。表１に2011年版と2022年版の大学院専攻目録における一級学科をまとめた。久しく，中国の大学専攻目録中に芸術部門はなく，芸術の諸学科がずっと文学部門の下に位置付けられていた。そこで，学界の努力と呼びかけにより，教育部は2011年３月８日に『大学院学科専攻目録』[9] を頒布し，芸術学はようやく文学部門から離れ，13番目の独立した学科部門となった。芸術学が独立したのは，芸術諸学科の発展に対する時代的な意義が大きいといえるだろう。

2022年発布の『新目録』で調整された最大の変化は「芸術学」部門であり，この際の調整は「三并（三つを同時に）」の原則に基づき調整され，大学院の学科専攻目録及びその管理の仕組みが改善された。いわゆる「三并」とは「目録（大学院学科専攻目録）と名簿（毎年増補される学科専攻名簿）を同時に発行し」，「専攻と学科を同時に重視し」，「権限を移し規範化することを同時に進める」[10] ことを指す。中国の伝統文化を広め，芸術学理論の一級学科としての基礎の上に，芸術学の一級学科を整え増設した。目下，国務院学術委員会，教育部が発行した『新目録』を見ると，「芸術学」学科目録の変化は以下のいくつかの特徴に概括できる。以下にまとめたい。

２．１　「分設」，「整合」，「新増」

『新目録』の調整は，芸術学部門中の一級学科を分類，調整し，学問領域を整えたということでもあり，異なった芸術学科の分類の境界と学科名称の調整等といった問題に関わるようになったということでもある。表１を見ると，2011年版の学術学位としては「芸術学理論（1301）」，「音楽と舞踏学（1302）」，「戯劇とメディア学（1303）」，「美術学（1304）」，「デザイン学（1305）」の５つに分類し設置している。2022年版の『新目録』においては2011年版の５つの一級学科を合わせて整理し，一つの「芸術学（1301）」という一級学科とした。加えて，専攻学位としては，2011年版にあった「芸術（1351）」を取り消し，『新目録』中に「音楽（1352）」，「舞踏（1353）」，「戯劇とメディア（1354）」，「戯曲と曲芸（1355）」，「美術と書法（1356）」，「デザイン（1357）」合計６個の一級学科を増やした。元々の『目録』中に唯一あった一つの「芸術（1351）」専攻学位の一級学科を調整し，６個の具体的な専攻学位の一級学科へと分けたということである。加えて，新しい学科部門として増設された「学際学科（14）」中に一級学科の「デザイン（1403）」を増設し，芸術部門とその他の学科の学際性を推奨し，芸術の創新と領域横断的を推奨している。

『新目録』の変化からみると，一級学科の変化の最大の特徴は，学術学位一級学科の「合流と整理」をおこなったことであり，専攻学位について，一級学科を「分けて設置」させて，「学際学科」を増加したことで

表１　2011年版と2022年版における芸術学部門の一級学科比較

<table>
<tr><th rowspan="2">版本</th><th rowspan="2">部門</th><th colspan="12">一級学科</th></tr>
<tr><th colspan="5">学術学位※1</th><th colspan="7">専攻学位※2</th></tr>
<tr><td>2011
年版</td><td>13
芸術学</td><td>1301
芸術学
理論</td><td>1302
音楽と
舞踏学</td><td>1303
戯劇と
メディア
学</td><td>1304
美術学</td><td>1305
デザイン
学
（芸術学，
工学の学
位を授与
できる）</td><td colspan="7">1351
芸術</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2022
年版</td><td>13
芸術学</td><td colspan="5">1301　芸術学
（音楽，舞踏，戯劇とメディア，美術と書法，
デザイン等の歴史，理論と批評研究を含む）</td><td>1352
音楽</td><td>1353
舞踏</td><td>1354
戯劇と
メディア</td><td>1355
戯曲と
曲芸</td><td>1356
美術と
書法</td><td>1357
デザイン</td></tr>
<tr><td>14
学際
学科</td><td colspan="5">1403　デザイン学
（工学，芸術学の学位を授与できる）</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

※1　学術学位は学位論文を審査対象として判定・授与される学位。
※2　専攻学位は創作作品等を中心として実践報告あるいは創作に関連する研究によって判定・授与される学位。
※各学科、専攻の前の数字は部門および学科のコードである。

あり，学術学位学科の減少と，「学際学科」の強化を実施し，「合五為一（5種類の学科を合わせて1つにする）」し，「変一為六（1つの学科を増やして6つにする）」し，「学際（学科）の増加」したことであるということができる。『新目録』は，専攻学位の学科を増加させ，学術学位学科を減らし，学際学科を強化し，芸術領域の新しい方向性と発展を求めたとまとめることができる。

2．2 「減学」と「増専」

『新目録』では学術学位中の一級学科の数を大幅に減らし，専攻学位中の一級学科の数を拡大した。「専攻と学科を共に重視する」という原則に基づき，規範中に「高度応用人材育成の重要な地位を固め，市場の需要に応え導き続け，社会主義で現代化した国家の全面的な建設に強力な支援を提供する。」[10] と明確に指摘している。今回の調整は中国が応用型人材の育成をいかに重視しているかを説明するものでもあり，社会経済の発展と産業構造の変化に伴い，専門技能と実際での応用能力の需要が一段と高まっており，専攻学位の増加にともない，学科は就職市場の特定職業技能の需要をさらに満足させ，卒業生の就職競争力を高めることにつながるだろう。

専攻学位の学科は，職業訓練と実践能力の育成に比較的重点をおき，社会の職業発展と密接に関連している。専攻学位の学科設置の拡大は，職業能力と実践的技能に対する社会的需要をより満たすことができるということになる。「三并」の原則は「専攻と学科を同等に重視する」ことを強調し，学術学位と専攻学位は同じ学術的地位を持つが，大量の専攻学位の分類が増加し，専攻学位の重要性が突出した。学術学位の学科を縮小し，専攻学位の学科を増加させる改革は，雇用市場の需要により応え，教育の質を向上させ，産学研究の統合を促進することにつながる。しかし，学科の多様性と学術研究の水準等といった問題を注意する必要があり，学位学術分野の数を減らすことは，領域の細分化による学科の弱体化をまねき，学科の多様性を制限することにもつながる。したがって，ある学者は専攻学位の実践的志向が過度に強調されると，学術研究の重要性に一定の影響を及ぼし，学術研究の水準低下をまねくことを懸念している。同時に，絶え間ない時代の変化と技術の発展に伴い，就職市場の需要も変化しており，特定の職業能力の育成に過度に集中することは，卒業生が就職市場の変化という危険に直面する危険性もあるといえる。

2．3 「統一」，「自設」

2011年以降に教育部が公布した学科専攻目録は，一級学科の目録のみを統一して設置し始めており，二級学科の具体的規定を再び作成せず，柔軟な，弾力的な運用，一級学科下に自主的に二級学科を設置できるような原則を採用している。これは教育部が長年強力に提供してきた教育理念の具体化であり，「書法学」学科建設のためには規格を広げ，学際的融合が必要であるという方向性が示された。一級学科の統一的設置は一つの学科分類システムについての標準化を提供でき，異なった学科の範囲と内容を規範化でき，一種の共同的言語と基礎的知識の構造を交流することの助けとなり，学科間の学際化と融合化を促進できる。関連する学科の組み合わせを通して共にすることで，異なった領域の間の協同と研究を推進することになり，学術の創新と学科横断的研究の創新を推進することになる。

二級学科の自主的な設置は，「権限を移し規範化することを同時に進める」の原則を通し，学術共同体が学科専攻を設置する自主性，自律性を強化し，大学の要求を十分尊重し各大学の特色を出すようにするものである。[11] 二級学科の自律的な設置は過度に硬直的で制限的な学科区分を回避し，学術研究や教育育成に大きな自由をもたらす。二級学科に対する厳格な規制がないため，学者や教育機関は学科横断的な共同研究や分野横断的なプロジェクトを実施しやすくなり，その結果，分野間の統合やイノベーションが促進されるともいえる。しかし，もし二級学科の区分が大きな論議を呼ぶような事態になれば，認識や位置づけが曖昧になり，学問分野の範囲や特性が曖昧になり，学術研究や教育に学術評価の標準や基盤に不確実性をもたらすこともありうるだろう。

3．「美術と書法」学科の一体化による階層構造

2022年版の『新目録』が発表され，書法学科の位置づけが向上した後，どのように書法学科を構築していくかという問題をめぐって多くの議論が交わされた。反対意見も決して少なくはなかった。賛成であれ反対であれ，その本来の意図は書法学専攻をよりよく構築し，健全に発展させることにある。つまり，意見の焦点は，書法学に関わる「二級学科」をどのように構築するかという点であり，[12] 書法学自身がすでに小専攻に属するようなものであり，具体的に二級学科を設定することができないのではないかというものである。しかし，この種の意見は主に書法が独立した一級学科

であるという前提に基づくものであり，「美術と書法」という一級学科の範疇で整理して考えられたものではない。実際，『新目録』は「美術と書法」を整った一級学科一級分野として学科目録に位置づけており，他の美術分野と同等に位置づけることで，書法学と美術学の人為的な境界を減らし，学科の全体的，総合的な発展を促進することができるといえるだろう。

『新目録』は，二級学科の柔軟な設置のために書法学がその基礎を固め，その特性を維持し，発展を主張するための新たな要件も提示している。一級学科の強みは，所属する二級学科が収束した基礎の上に成り立つものではなく，それぞれが特徴と活力を維持し，二級学科自体が力のある学科となることが前提である。『博士，修士学位授与及人材育成学科専業目録（征求意見稿）』の導入後，多くの学者が，「芸術学理論」が一級学科からなくなったことを憂いている。『新目録』の調整により増設された「美術と書法」という一級学科は書法学科発展と建設にとってこれまでにない新しい機会であり，「美術と書法」という一級学科の新しい名称の下で，書法学はより広い学科環境の下で成長し，文学，歴史，哲学の知識をより多く吸収し，二級学科の構造を合理的に構築し，書法学の視野と発展領域を拡大させなければならない。同時に，デジタル時代における書法学の基礎を注視し，書法学の研究と教育は，学際的な融合戦略への適応をさらに促進し，書法学のより広範で活気のある発展をもたらす必要がある。

大学院学科専攻目録中において，一級学科は学科部門下の学科群（類）であり，二級学科は具体的な専攻である。したがって，学科専攻目録の一級学科の名称はそれが属する二級学科の上位概念であるべきである。例えば，美学は哲学の二級学科であり，会計学は経営学の二級学科であり，金融学と統計学は応用経済学の二級学科である等といったようにである。これらの学科はいずれも相当程度の社会的認知度と学問的力量を持っている。2011年の学科目録の調整で，「芸術学」が「文学」部門から独立して第13番目の学科部門（類）になって以来，「音楽と舞踏学」や「戯劇とメディア学」という二つの二級学科が合わさり一級学科の名称となったものが出現したが，所属する二級学科の健全な発展を妨げるものではなかった。今回，芸術部門の一級学科の調整にも同じ方式が採用され，「戯劇とメディア」の名称以外，「戯曲と曲芸」および「美術と書法」の２つの専攻学位が一級学科としてあらたに増設された。これからはどのように二級学科を設置するか考えていかなければならない。

実際に，二級学科の構築に関して，多くの提案が出され議論されているが，その多くは「書法学」という独立した学科を二級学科として構築することに焦点が当てられている。この問題について，「美術と書法」を必ず整った一級学科として構築しなければならず，二級学科の構築は「美術と書法」中のすべての専攻をカバーしなければならないと考える。学部専攻目録と連結させ，統一した枠組みの下でそれぞれの専攻の方向性とカリキュラムを構築しなければならないだろう。図２に学部と大学院を連関させたモデルケースを示した。

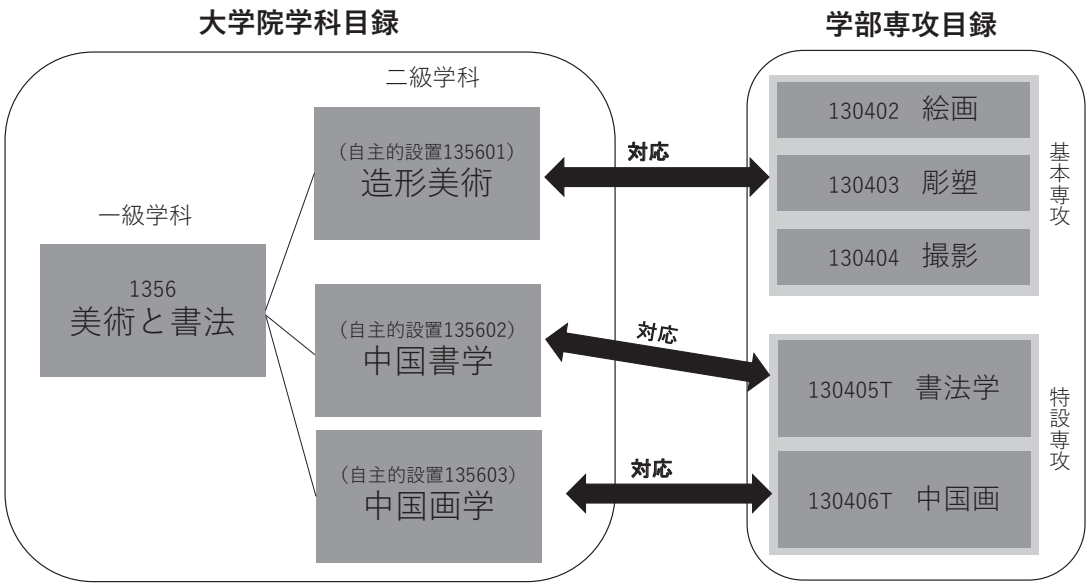

図２　学部と大学院を連関させたモデルケース

各二級学科は一つの専攻として，みな比較的独立して構築し，それらの集合体として一級学科の存在価値が形成される。どのような分類や命名も，絶対的に完璧であることは難しく，相対的な合理性と自己完結的な体系を求めることしかできない。と同時に「美術と書法」という概念の下の新しい二級学科は，強い時代性と先端性を持っている必要がある。このような状況下で，書法学という学科建設は確固たる方向性と絶え間ない努力が必要であり，合理的な二級学科構築のため，各領域の発展計画と必要性に従って，独自に三級的な研究方向を設定するべきである。例えば「中国書学」という二級学科の下では，金石文字研究，書体研究，技法研究，芸術風格研究，鑑蔵研究，書道史研究，文献研究，書法理論研究，美学研究，批評研究，教育研究，文化地理研究，計量統計研究，文物考古研究，道具材料研究等といった三級的な研究コースを設置することにより，二級学科の基礎学科理論を固め，一級学科の発展と革新のために，学問の堅固な基礎を築き，真に権利と革新を保ち，新しい地平を切り開けると考える。

４．中国高等教育における書法学科建設の意義

学科目録改革は現在の中国高等教育の発展における重要な取り組みであり，その中心的な目的は，学科の肯定的な水準の向上と高品質な発展を促進することである。書法が「美術と書法」として一級学科に昇格することは，中国の高等教育において，書法が独立した学科専攻としてみなされ，他の学科と同様に独立した教育・研究体制が確立されることを意味する。一級学科をより充実したものにすることは，すべての二級学科の存続と発展の前提条件である。書法は中国文化の重要な符号の一つであり，文化，歴史，哲学，心理学などの諸学科と密接な関係を持ち，「中国書学」という二級学科の専攻建設を強化することは，書法芸術と他の学科との横断的融合を促進し，書法芸術の革新をさらに進め，学科の革新的な発展を促進することにつながる。この学問の基礎を強化することは，書法教育の振興と中国の優れた伝統文化の継承・発展に資するものであり，書法芸術の国際的な普及に貢献するものでもある。

４．１　書法学の一級学科としての地位を明確にすること

「美術と書法」という一級学科の新しい名称は，社会の情報化の発展とデジタル改革の戦略的需要に向かい，より広範で包括性を持った書法学学科の存続と発展のためのより広い空間とさらに広く厚みのある学科のバックボーンを提供する。

元々あった「美術学」という一級学科は書法学という領域を適切に反映することができなかった。二級学科である「書法学」の境界も比較的曖昧模糊としたものであり，学科の境界の不明確さ，研究範囲や研究方法の決定を難しくさせていた。『新目録』は「美術と書法」を一級学科とし，一級学科の本質的な意味合いを明らかにし，書法学が一級学科に位置付けられる地位を明確にし，学部専攻目録と大学院学科専攻目録の垣根を取り払い，より国家戦略と人材の需要に合致し，書法学学科の独立した存続と発展のために，より堅固な基礎と支持を得ることができるだろう。

４．２　学部，修士，博士の学科専攻の一体化を実現するために

教育部が公布した『普通高等学校（大学）本科専攻目録』（普通高等学校本科専業目録）（2012年）[13] は，「美術学類（1304）」専攻下に特設専攻「書法学（130405T）」と「中国画（130406T）」を設置しており，専攻を独立させ学生を募集できるようになった。しかし，長年，修士，博士課程での育成において対応する一級学科がなかった。『新目録』で「美術と書法」が一級学科として新設されてから，真の意味での大学学部における「書法学」の特設専攻と修士，博士課程の育成が一体化しておこなえることになった。『新目録』において学科が整理され構築され，学部の「書法学」特設専攻から，大学院の「美術と書法」一級学科へと，本科専攻目録と大学院学科目録の間の関連が実現し，異なった学位段階を通した専攻発展の連続性を保証し，書法学の学部，修士，博士の学科専攻の一体化が実現したのである。

４．３　学科組織をより良くし，学科の競争力を高める

学科目録改革は芸術学の学科構築の透明性と公正性を強化し，芸術学各部門の間の全体的な競争力を高めることになった。国家社科芸術学項目での過去の承認割合から考えると，小さな学科あるいは二級学科は非常に大きな制限を受けており，学科目録改革は学科発展中の利権と不公平分配の紛争を減らし，学科構築を高めやすくなり，学科発展の科学性と信頼性を高めるといえる。つまり，芸術学科についていうならば，『新目録』の変化は長期的戦略意義がある改革であり，その実施には学界が一体となった努力と指示を必要とするものである。今後の発展過程において，絶え間ざ

る省察を必要とし，学科発展のための研究，探索を強化し，一歩一歩高等教育における書法教育のより高い質での発展を推進していかなければならない。

おわりに

2022年に新版の学科専攻目録を調整することは，高等教育における書法教育の専攻建設にとってまたとない機会であるとともに挑戦でもあり，『新目録』の公布は，既存の学科体系における中国の高等書法教育が，学科の段階的構築，カリキュラム，教育内容，教育方法，評価規準といった一連の調整と改革に直面することを意味する。中国高等書法教育専攻の建設は，「美術と書法」という総合的な学科体系中に一体化して明確に構築される必要があり，全体的に融合した目標を実現しなければならない。新時代の社会発展の背景の下，横断的融合は伝統的な学科が社会の発展にともなう新しい要求に直面し，それに対応することでもあり，書法学科建設は同様にその他の芸術学科と横断的な融合をおこなうことで，発展していくことができるのではないか。

同時に，新版学科目録において専攻学位分野の構築を強化するため，専門性と独立性を強調しすぎるあまりに，研究者の視野を狭め，思考を広げることを阻害しないよう注意を払う必要がある。「美術と書法」について，芸術美学の視点に加え，文字，歴史，文化，社会などの多くの角度から掘り下げた研究をおこない，単一の研究手法に偏らないようにし，筆法，図像，形式など単一レベルの技法の分析に偏重し，そこに込められた文化的，歴史的，社会的背景を無視することのないよう十分注意しなければならない。専攻の基礎の上に，文化的内包を深く考察することで，「美術と書法」を真に独立した，多様で包容力のある魅力的な一級学科とすることができる。芸術は技術に留まらず，いわゆる「道也，進乎技矣（道なり。技を進えたり）」[14] とあるように，「技」と「道」は芸術の両面であり，両者を切り離して見ることはできない。「道」の支えがない「技術」は本当の芸術ではない。「美術と書法」という学科建設も同様に，専門的かつ学問的に進めていく必要があり，芸術と理論が通じ合っていく必要があり，どちらもないがしろにしてはいけない。そうでなければ，専攻学位分野は「学」の理論的価値と「道」の文化的意義を失ってしまうことになるだろう。

注

1 「国務院学位委員会，教育部による『研究生教育学科専攻目録（2022年）』公布の通知」（学位〔2022〕15号）（国務院学位委員会，教育部印発『研究生教育学科専業目録（2022年）』的通知）参照。以下の教育部ホームページ掲載のものを参照した。
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A22/moe_833/202209/t20220914_660828.html（2023年9月15日最終閲覧）

2 注1に同じ。

3 1981年国務院が批准し実施した『中華人民共和国学位条例暫行実施頒発』では，学科目録の三級学科が規定され，さらに10種類の学科部門が規定された。この学科目録中に示された10種の学科部門は，哲学，経済学，法学，教育学，文学，歴史学，理学，工学，農学，医学であり，ともに設置された一級学科は63種あり，638種類の二級学科（学科および専攻）が示された。

4 「国務院学位委員会，国家教育委員会『修士，博士学位の授与と大学院育成の学科，専攻目録の通知』施行について」（学位〔1990〕030号）（1990年11月28日）（国務院学位委員会，国家教委関于施行『授予博士，碩士学位和培養研究生的学科，専業目録的通知』）参照。1990年の学科目録では，軍事学部門とその下に8種の一級学科を新設した。

5 『修士，博士学位の授与と大学院養成の学科，専攻目録』（1997年頒布）（『授予博士，碩士学位和培養研究生的学科，専業目録』）については，以下の教育部ホームページ掲載のものを参照した。
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A22/moe_833/200512/t20051223_88437.html（9月15日最終閲覧）

6 教育部ホームページより
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A22/moe_833/201103/t20110308_116439.html（9月15日最終閲覧）

7 2015年11月，国務院学位委員会と教育部が『インターネットセキュリティ一級学科増設に関する通知』（関于増設網絡空間安全一級的通知）を公布し，「工学部門」に「インターネットセキュリティ」の一級学科を増設することがきまった。学科コードは「0839」で「工学」の学位を授与する。2018年4月，教育部は学科目録を更新した。ならびに学部専攻学位方面も少なからず調整された。これにより専攻学位の総数は47種類となった。教育部ホームページ「学位授予和人才培養学科目録（2018年4月更新）」参照。
http://www.moe.gov.cn/jyb_sjzl/ziliao/A22/201804/t20180419_333655.html（9月15日最終閲覧）

8 教育部ホームページ（http://www.moe.gov.cn/srcsite/A22/

moe_833/200512/t20051223_88437.html）（12月5日最終閲覧）によると二級学科の総数は386種類だが，統計を計算すると387種類であり，本稿では387種類とした。

9 「『学位授与と人材育成学科目録（2011年）』の公布についての通知」（学位〔2011〕11号）（「関于印発『学位授予和人才培養学科目録（2011年）』的通知」より。教育部ホームページを参照した。
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A22/moe_833/201103/t20110308_116439.html（9月15日最終閲覧）

10 中国学位と大学院教育学会副会長の楊斌「以“三并”為着力点，構建新时代中国特色学科専業管理新機制」より。教育部ホームページ掲載のものを参照した。
http://www.moe.gov.cn/jyb_xwfb/moe_2082/2022/2022_zl24/202209/t20220914_660973.html（9月15日最終閲覧）

11 国務院学位委員会，教育部公布の『研究生教育学科専攻目録管理弁法』（学位〔2022〕15号）（研究生教育学科専業目録管理弁法）参照。
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A22/moe_833/202209/t20220914_660828.html（9月15日最終閲覧）

12 教育部は新版の学科専攻目録を発行するとともに公布した新版『大学院教育学科専攻目録管理弁法』（研究生教育学科専業目録管理弁法）第5条の規定では，「二級学科と専攻領域は，学位授与単位から関連する規定に基づき一級学科あるいは専攻学位の種類の学位授与権利内において自主的に設置と調整する」とした。

13 陳振濂「『書法学』学科研究整体観」（『美術観察』2022年9期），叶培貴「複雑糾紙結的設置及応対建議—書法学科升級若干問題的思考」（『美術観察』2022年9期），蔡清徳「芸術学科『学』『術』剥離之利弊与書法地位提升之意義」（『大学書法』2022年2期），黄修珠「従属与并置：論当今書法学科設置現状及学科升級之依据」（『大学書法』2020年2期）等。

14 『教育部『普通高等学校（大学）学部専攻目録（2012年）』『普通高等学校（大学）学部専攻設置管理規定』等の文件の通知』（教高〔2012〕9号）（教育部関于印発『普通高等学校本科専業目録（2012年）』『普通高等学校本科専業設置管理規定』等文件的通知）による。教育部ホームページ掲載のものを参照した。
http://www.moe.gov.cn/srcsite/A08/moe_1034/s3882/201209/t20120918_143152.html（9月15日最終閲覧）

15 『荘子 養生主』より。陳鼓応『荘子今注今譯』（中華書局，1983年5月，96ページ）を参照。

附　中国大学院教育学科専攻目録各版本における「芸術学」部門及び学科概要表

版本	部門	一級学科	二級学科
1983年版	05 文学	0503 芸術学	確認できず
1990年版	05 文学	0503 芸術学	050301 音楽学（音楽教育を含む） 050302 作曲と作曲技術理論 050303 音楽舞台芸術（鍵盤楽器、管弦楽器、中国楽器、声楽を含む） 050304 美術学（美術教育、民間美術研究を含む） 050305 絵画芸術（中国画、油画、版画、壁画を含む） 050306 雕塑芸術 050307 工芸美術学 050308 工芸美術デザイン（陶器デザイン、デザイン、染識デザイン、装飾デザイン、書籍デザイン、服飾デザイン、装飾絵画、金属工芸、漆器工芸を含む） 050309 環境芸術 050310 戯劇学（戯曲学） 050311 戯劇、映画文学 050312 演出および舞台芸術 050313 舞台美術および技術 050314 映画歴史および理論 050315 映画芸術および技術（テレビ芸術および技術を含む） 050316 舞踏歴史および理論 0503S1 工業造形芸術 0503S2 楽器修造芸術
1997年版	05 文学	0504 芸術学	050401 芸術学 050402 音楽学 050403 美術学 050404 デザイン芸術学 050405 戯劇戯曲学 050406 映画学 050407 メディア芸術学 050408 舞踏学
2011年版 2018年版	13 芸術学	1301 芸術学理論 1302 音楽と舞踏学 1303 戯劇とメディア学 1304 美術学 1305 デザイン学（芸術学、工学の学位を授与できる） 1351 芸術	
2022年版	13 芸術学	1301 芸術学（音楽、舞踏、戯劇とメディア、戯曲と曲芸、美術と書法、デザイン等の歴史、理論と批評研究を含む） 1352 音楽 1353 舞踏 1354 戯劇とメディア 1355 戯曲と曲芸 1356 美術と書法 1357 デザイン	
	14 学際学科	1403 デザイン学（工学、芸術学の学位を授与できる）	

中華人民共和国における『大学院教育学科専攻目録』改訂の変遷と高等教育における書法学科の行方

Revision of the “Catalogue of Graduate Education Department Majors（大学院教育学科専攻目録）” and The Future of the Department of Shufa（書法）in Higher Education in the People’s Republic of China

王　力軍*1・加藤　泰弘*2・草津　祐介*2

WANG Li Jun, KATO Yasuhiro and KUSATSU Yusuke

教育実践創成講座

Abstract

On September 13, 2022, the “Catalogue of Majors in Graduate Education（大学院教育学科専攻目録）” and the “Administrative Measures for the Catalogue of Majors in Graduate Education（大学院教育学科専攻目録管理弁法）” were promulgated, indicating 14 departments and 117 first-level departments to be established in the Graduate School. In the “Catalogue of Majors in Graduate Education（大学院教育学科専攻目録）,” “Fine Arts and Calligraphy（美術と書法）” in the Department of Art Studies was newly designated as a first-level department.

In this study, the background of the revision of the so-called Graduate Department Catalog from the 1983 edition to the 2022 edition is discussed after examining the changes in the catalog. The state of “study of calligraphy（書法学）” after “Art and Calligraphy（美術と書法）” is positioned as a first-class department in the “Catalog of Graduate Education Department Majors（大学院教育学科専攻目録）” will be discussed.

Calligraphy education in Chinese universities must be clearly constructed as an integral part of the comprehensive departmental system of “fine arts and calligraphy（美術と書法）” to realize the overall goal of integration.The construction of a calligraphy department could be developed through cross-fertilization with other art departments. In addition, “Art and Calligraphy（美術と書法）” can become a truly independent, diverse, inclusive, and attractive first-class department by conducting in-depth research from many angles, including text, history, culture, and society, in addition to the perspective of art aesthetics.

Keywords: higher education, Calligraphy Education（Shodo Education）, Catalogue of Graduate Education Department Majors

Department of Educational Leadership, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo 184-8501, Japan

*1　ShanXi University（No. 92, Wucheng Road, Taiyuan City, Shanxi Povince, China）
*2　Tokyo Gakugei University（4−1−1 Nukuikita-machi, Koganei-shi, Tokyo, 184−8501, Japan）

要　旨

2022年9月13日，『大学院教育学科専攻目録』と『大学院教育学科専攻目録管理弁法』が公布され，大学院に設置する14の部門，117の一級学科が示された。その『大学院教育学科専攻目録』では，芸術学部門の「美術と書法」が新たに一級学科に位置付けられることになった。

本研究においては，1983年版から2022年版までのいわゆる大学院学科専攻目録の改訂の変遷を考察したうえでその背景を追究した。その後，『大学院教育学科専攻目録（2022年）』で「美術と書法」が一級学科に位置づけられて以降の「書法学」の在り方について考察する。

中国の大学における書法教育は，「美術と書道」という総合的な学科体系中に一体化して明確に構築される必要があり，全体的に融合した目標を実現しなければならない。書法学科の建設はその他の芸術学科と横断的な融合をおこなうことで，発展していくことができるのではないか。加えて，「美術と書道」は，芸術美学の視点に加え，文字，歴史，文化，社会などの多くの角度から掘り下げた研究をおこなうことで真に独立した，多様で包容力のある魅力的な一級学科とすることができるだろう。

キーワード: 高等教育，書法教育・書道教育，大学院学科専攻目録